

生徒の本気に精一杯応え 自信を育み、共に成長したい

今回は何ごとにも全力投球の緒方将洋先生です。生徒の要望で吹奏楽愛好会の顧問も務めています。日々、どんな思いで生徒に向き合っているのでしょうか？

緒方先生は「人の縁」を引き寄せる人だ。大学の先生の推薦で初任校へ就職、現任校には当時の校長先生が前任校に頼み込んで転職…。「この人なら」と見込まれ信頼されて歩んだ教員人生である。

吹奏楽愛好会の顧問になったのも縁だった。3年前、体育館で生徒会顧問として文化祭の打ち合せをしていたとき「吹奏楽の発表がしたい」という生徒たちが先生のもとにやってきた。楽器を持っていない生徒に母校の中学校への借用依頼書を作って持たせるなど、何かと世話をして、演奏は無事実現。

その翌年、生徒会の意見箱に「吹奏楽愛好会を作りたい。顧問は緒方先生で」という投書があった。「演奏経験もないのにどうしよう？」と同僚の先生に相談。するとその先生の紹介で、地元自衛隊所属の音楽隊が演奏指導を買って出てくれた。その年の文化祭は音楽隊の方も参加し、大成功！かけがえのない思い出を残せた。

「穏やかな校風の女子校なので、生徒は仲が良いのですが、愛好会とはいえ単なる仲よし集団に甘んじてほしくない。演奏技

術を高めたい、多くの人に聞いてもらいたいという目標に向けてまい進できるように見守るのが私の務めだと思っています。生徒が自ら考え動く力が育つよう、距離感には気を付けています」。

学校は、自尊感情を高め たくさんの夢をかなえる場

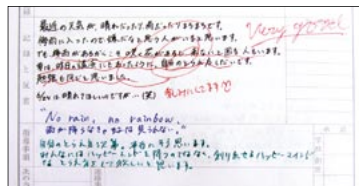
生徒から信頼される緒方先生。バレンタインデーに山のように手渡されるチョコレートのお礼は、チーズケーキと決めている。「お小遣いが少ないので(笑)、手作りしていたら、お返し目当てで年々数が増えて…」と照れる。中2で父親を亡くして以来、母親の明るい笑顔に救われてきた。だから「女性が笑顔でいられる集団がいい集団。女子校で女子教育に携われることが誇り」という。穏やかな笑顔のすぐ下に、熱い情熱を秘めている熱血先生だ。

「生徒には自分を過小評価せず、すばらしい価値があると信じてほしい。生徒も自分自身も、学校という場所でたくさんの夢をかなえていきたいですね」。



熊本・私立尚綱高校
緒方将洋先生(34歳)

弟が高校を中退した時「自分が先生なら引きとめたかった」と思いこの道へ。福岡外語専門学校から熊本学園大学へ編入。卒業後科目履修生として2年間学び教員資格を取得。初任校は玉名女子高校。2007年より現職。



専門学校で挫折しかけたとき、高校の先生にももらった茨木のリ子の詩「自分の感受性ぐらい」の一節が目にとまり、思いとどまった。「言葉の力はすごい。それを伝えたくて、生徒が書いた日誌に関連する名言とそれに対する自分の気持ちを毎日記入。今はピンとこなくてもいつか役に立つと思っています」。

fan message



笑顔と情熱が絶えない方ですから、多くの人に慕われるのは当然です。教員も人の子。自分と違う価値観を持つ生徒には距離を感じるものですが、先生はどんな個性にも抵抗なく寄り添い、生かそうする。深い愛情と懐の深さに脱帽します。(尚綱高校・進路指導部長・重信弘子先生より)